

製品安全データシート

1, 化学物質等及び会社情報

製品名 エオジノステインートリイ
整理番号 TO-001
作成日 2007年4月2日

会社名 鳥居薬品株式会社
住所 〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1
問い合わせ先 お客様相談室
電話番号 0120-316-834(平日午前9:00~午後5:30)
FAX番号 03-5203-7335
<http://www.torii.co.jp>

2, 危険有害性の要約

【GHS分類】(NITE分類)(メタノールについて)

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分2
自然発火性液体 : 区分外
自己発熱性化学品 : 区分外
金属腐食性物質 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性 経口 : 区分5
急性毒性 経皮 : 区分外
急性毒性 吸入:蒸気 : 区分外

眼に対する重篤な損傷性

／刺激性 : 区分2A-2B

生殖細胞変異原性 : 区分外
生殖毒性 : 区分1B

特定標的臓器／全身毒性(単回暴露) : 区分1(中枢神経系、視覚器、全身毒性)

特定標的臓器／全身毒性(単回暴露) : 区分3(全身麻酔作用)

: 区分3(気道刺激性)

特定標的臓器／全身毒性(反復暴露) : 区分1(中枢神経系、視覚器)

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分外
水生環境慢性有害性 : 区分外

(注)危険有害性の分類で、「分類対象外」及び「分類出来ない」は項目を省いた。

【GHS ラベル要素】

【GHS 絵表示】(メタノールについて)



【注意喚起語】(メタノールについて)

危険

【危険有害性情報】(メタノールについて)

- ・引火性の高い液体及び蒸気
- ・飲み込むと有害のおそれ(経口)
- ・強い眼刺激
- ・生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- ・中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害
- ・呼吸器への刺激のおそれ
- ・眠気又はめまいのおそれ
- ・長期又は反復暴露による中枢神経系、視覚器の障害

【注意書き】

【安全対策】(メタノールについて)

- ・使用前に取扱説明書を入手する。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用する。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用する。静電気放電や火花による引火を防止する。
- ・熱、火花、裸火、高温のものから遠ざける。一禁煙。
- ・個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避ける。
- ・保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用する。
- ・ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。

【救急処置】(メタノールについて)

- ・火災の場合には、消火に粉末・二酸化炭素・泡消火器を使用する。
- ・眼に入った場合:水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当を受ける。
- ・皮膚(または髪)にかかった場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ、取り除く。
皮膚を流水、シャワーで洗う。
- ・吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
- ・気分が悪い時は、医師の診断、手当を受ける。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断、手当を受ける。

【保管】(エオジノステインについて)

- ・容器を密閉して換気の良い涼しい所で施錠して保管することが望ましい。

【廃棄】(エオジノステインについて)

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託する。

3, 組成、成分情報

(エオジノステインについて)

【単一製品・混合物の区別】 混合物

	化学名	別名:	化学式:	CAS No:
(成分1)	メタノール	メチルアルコール	CH ₃ OH	67-56-1
(成分2)	グリセリン	グリセロール	C ₃ H ₅ (OH) ₃	56-81-5
(成分3)	エオジノステイン		データなし	データなし
(成分4)	メチレンブルー三水和物		C ₁₆ H ₁₈ N ₃ SCl·3H ₂ O	7210-79-3

	含有量(w/w %)	官報公示整理番号
(成分1)	82.6%	化審法 2-201 安衛法 公表
(成分2)	16.8%	化審法 2-242
(成分3)	0.5%	該当せず
(成分4)	0.1%	化審法 5-1995

4, 応急措置

(メタノールについて)

- ・吸入した場合:新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。
- ・皮膚に付着した場合:汚染された衣服を脱がせ、大量の水で皮膚を洗浄。医師に連絡。
- ・眼に入った場合:先ず数分間、多量の水で洗い流す(できればコンタクトレンズをはずす)。医師に連れて行く。
- ・飲み込んだ場合:吐かせない。意識あるなら、口をすすぎ、2-4杯の牛乳か水を与える。意識なければ、何も与えない。医師に連絡。

5, 火災時の措置

(メタノールについて)

【消火剤】

- ・水スプレー、粉末消火薬剤、AFFF(水性膜泡消火薬剤)、耐アルコール泡消火薬剤、二酸化炭素。

【使ってはならない消化剤】

- ・棒状注水

【特有の危険有害性】

- ・極めて燃えやすい、熱、火花、火炎で容易に発火する。
- ・加熱により容器が爆発するおそれがある。
- ・火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
- ・引火性の高い液体及び蒸気。

【特有の消火方法】

- ・散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消化剤のうち、散水以外の適切な消化剤を利用すること。
- ・引火点が極めて低い:散水以外の消化剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。
- ・危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- ・移動不可能な場合、容器及び周囲に散水し、冷却する。

【消火を行う者の保護のために着用する保護具】

- ・消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6, 漏出時の措置

(メタノールについて)

【人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置】

- ・暴露しないよう十分な換気のもと保護具着用して行う。
- ・「8. 暴露防止及び保護措置」における、保護具着用する。

【環境に対する注意事項】

- ・上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

【封じ込め及び浄化の方法・機材】

- ・漏出物をふた付の容器に集め、残留物を砂または不活性吸収剤に吸収させて安全な場所に移す。

7, 取扱い及び保管上の注意

(メタノールについて)

【取扱い】

①技術的対策

- ・蒸気、ミスト、ガスが、皮膚に触れたり、吸入することがないように、局所排気したり、保護具を着用する。

②局所換気・全体換気

- ・作業場を換気する。

③注意事項

- ・作業中は飲食、喫煙をしない。
- ・裸火禁止、火花禁止。

④安全取扱い事項

- ・強酸化剤との接触に注意する。

【保管】

①適切な保管条件

- ・火気厳禁。
- ・密栓して換気の良い冷暗所に保管する。
- ・強酸化剤から離しておく。

8, 暴露防止及び保護措置

(メタノールについて)

【設備対策】

- ・局所排気装置、換気装置を用いて、ミスト、ほこり、蒸気濃度を低く保つ。

【管理濃度】

- ・200ppm

【許容濃度】

ACGIH(2005年)

TLV-TWA:200ppm(皮膚)

TLV-STEL:250ppm(皮膚)

日本産業衛生学会勧告値(2005年):200ppm(皮膚)(260mg/m³)

【保護具】

- ・有機ガス用防毒マスク。送気マスク、空気呼吸器等。
- ・不浸透性保護手袋。
- ・安全ゴーグル。
- ・不浸透性保護衣。

9, 物理的及び化学的性質

【外観】濃青紫色の液体

【臭い】アルコール臭

【pH】6.0～7.0

【融点】-96℃ (メタノール)

【沸点】64.7℃ (メタノール)

【引火点】11.4℃

【自然発火温度】385℃(メタノール)

【発火点】385℃(メタノール)

【爆発範囲の下限・上限】 6～35.6vol%(空气中)(メタノール)

【蒸気圧】12.3kPa (20℃)(メタノール)

【相対蒸気密度(空気=1)】1.1、20℃での蒸気/空気混合気体の相対密度(空気=1):1.01(メタノール)

【比重(相対密度)】約 0.85

【溶解度】水に溶ける

【n-オクタノール/水分配係数】-0.82 / -0.66。(メタノール)

【分解温度】データなし

10, 安定性及び反応性

【安定性】常温常圧で安定

(メタノールについて)

【危険有害反応可能性】加熱すると分解して、一酸化炭素、ホルムアルデヒドが生じる。

【避けるべき条件】加熱、引火源、スパーク、静電気

【混触危険物質】強い酸化剤、過酸化水素

【危険な分解生成物】加熱分解により一酸化炭素、ホルムアルデヒドを生じる。

11, 有害性情報

(メタノールについて)

【急性毒性】経口

ラット経口 LD50 値=6200mg/kg (EHC 196 (1997)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (4th, 1994))

ラット経口 LD50 値=9100mg/kg (EHC 196 (1997)、PATTY (4th, 1994))

ラット経口 LD50 値=12900mg/kg (EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (4th, 1994))

ラット経口 LD50 値=13000mg/kg (EHC 196 (1997)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994))

に基づき計算値は 7939mg/kg となり、動物実験の結果からは区分外と判断された。

一方、メタノールの毒性はげっ歯類に比べて霊長類には強く現れるとの記述があり (EHC 196 (1997))、ヒトで約半数に死亡が認められる用量が 1400mg/kg であるとの記述 (DFGOT vol.16 (2001)) があることから、区分 5 とした。

【急性毒性】 経皮

ウサギ経皮 LD50 値=15800mg/kg (DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (4th, 1994))
に基づき、区分外とした。

【急性毒性】 吸入:蒸気

ラット吸入 LC50 (8 時間) 値=>22500ppm (DFGOT vol.16 (2001)、蒸気圧から蒸気と判断)
に基づき、区分外とした。

【眼に対する重篤な損傷性/刺激性】

EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)および PATTY (4th, 1994)に、ウサギを用いた試験で軽度ないし中等度の眼刺激性が認められたとの記述があるが、回復性については明らかな記述がないこと、およびヒトで角膜の障害、強度の結膜浮腫が一過性に認められていること(DFGOT vol.16 (2001))から、区分 2A-2B とした。

【生殖細胞変異原性】

マウス赤血球を用いる小核試験で陰性の結果(EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (4th, 1994))があることから、区分外とした。

【生殖毒性】

EHC 196 (1997)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.16 (2001)および PATTY (4th, 1994)に、妊娠ラットおよびマウスを用いた経口および吸入暴露試験で胎児奇形または胎児死亡の増加が認められたとの記述があるが、信頼性のあるヒト暴露例のデータがないことから、区分 1B とした。

EHC 196 (1997)、DFGOT vol.16 (2001)および PATTY (4th, 1994)に雄ラットでテストステロン濃度の低下または精巣変性がみられたとの記述があるが、これとは逆に、雄の生殖器系への影響は認められないとの記述もあり、雄の生殖能力に対する影響は明らかではない。

【特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)】

ヒトで急性経口または吸入暴露により中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられるとの記述(EHC 196 (1997)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (4th, 1994)および産衛学会勧告(1993))や、ヒト暴露例で代謝性アシドーシスがみられるとの記述(ACGIH (7th, 2001)および DFGOT vol.16 (2001))から、標的臓器は中枢神経系、視覚器および全身毒性と判断し、いずれも区分 1 とした。また、ラット反復吸入暴露試験で気道刺激性がみられたとの記述(EHC 196 (1997)および PATTY (4th, 1994))、およびヒトで粘膜刺激症状がみられるとの記述(産衛学会勧告)、また、ラット、マウス、アカゲザル等で麻酔作用が認められたこと(EHC 196 (1997)および PATTY (4th, 1994))から、気道刺激性および麻酔作用があると判断し、いずれも区分 3 とした。

【特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)】

ヒトの長期暴露例で中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられたとの記述(EHC 196 (1997)、ACGIH (7th, 2001)および DFGOT vol.16 (2001))から、標的臓器は中枢神経系および視覚器であり、いずれも区分 1 とした。

12, 環境影響情報

(メタノールについて)

【生態毒性】

- 水性環境急性有害性: 甲殻類(ブラインシュリンプ)の24時間LC50=900.73mg/L (EHC196、1998)から、区分外とした。
- 水性環境慢性有害性: 難水溶性でなく(水溶解度=1.00×106mg/L (PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

【残留性・分解性】

・化審法既存化学物質の安全性点検結果:良分解(1993/12/28)

13, 廃棄上の注意

・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託する。

14, 輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

(メタノールについて)

国連番号:1230

品名:メタノール

国連分類: 3.2 (中引火点引火性液体)

容器等級: II

海洋汚染物質:非該当

15, 適用法令

消防法:第 4 類引火性液体、アルコール類(法第2条第 7 項危険物別表第1)

毒物及び劇物取締法:該当外

労働安全衛生法:

名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第 1 条第 1 項第4号)

労働基準法:疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号)

16, その他の情報

参考文献

・メルクインデックス13版 5984

・STNインターナショナル RTECS ファイル

・危険物船舶運送及び貯蔵規則;危険物総索引(九訂版)日本海事検定協会(海文堂)

・NITE GHS 分類データ

・NITE GHS 分類マニュアル(H18.2.10 版)

記載内容の取り扱い

- 記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。
- 全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。